

はすが丘団地の「今」と「未来」：変わりゆく街のチャンスと課題

1970年代に開発された郊外団地「はすが丘」は、今、大きな転換期を迎えています。若い世代が移り住むという明るい変化の一方で、空き家が増加するという課題も抱えています。このインフォグラフィックは、街の現状と未来へのヒントを探ります。

はすが丘の「今」 - 変化の光と影

光：古い1戸が新しい2戸に！ 街の若返り

広い敷地を分割し新築住宅に。
30～40代の若い家族が増加中。



影：静かに増え続ける 「空き家」問題

相続や管理の問題で放置され、
地域の安全や景観上のリスクに。

未来へのヒント - 他の団地の成功事例3選

事例①：空き家を「地域の居場所」に転換



高齢者のお茶飲み場や、子供の放課後スペースとして活用。

事例②：移動販売で「井戸端会議」を創出



公園にキッチンカーを呼び、住民同士の自然な交流の場を作る。

事例③：リノベーションで「新たな価値」を生む



DIY可能な物件として提供し、自分らしく暮らしたい著者世代を誘致。